



だより



R7.10.8 Vol.22

Sさんは…

とある用務員さんと養護教諭の会話です。「それって老眼鏡ですか?」「うん!Sさんも、すぐかける日が来るよ!あはは…。」

数日後、私が用務員さんに書類を渡すことができました。「あ!Sさんはこの書類の小さい字はまだ見えるんですか?」「はい!大丈夫です!」「若いなあ!」隣に座っていた養護教諭!間髪入れず、「校長先生!!…今、『Sさんは』って言いましたよね?その『は』はどーゆー意味なんでしょう?」

「え?いや、その、私も見えにくいので…そういう意味で言ったつもりなのですが…あ、そうですね…えっとお〜…校長室もどりま〜す…。」

毎日、とても刺激的な職員室です。滅多なことが言えません。(笑)

ここで一句

何気なく 言った一言 氷点下
お粗末でした…。



失礼します

昼休み、4年生のある男の子が「失礼します。入っていいですか?」と聞いてきたかと思うと次の瞬間には私の座っている椅子の横にいます。(笑)

修学旅行明け、「失礼します。校長室!!なんか久しぶりやなあ!」とまるで旧知の友との再会のように入ってきました。「ちょっと!入っていいと言っていないんやけど…」と言った瞬間、また私の横に笑顔で立っていました。少しするとまた一人、4年生の男の子が、「入っていいですか?」とやってきます。「校長先生!この前、僕の車の後ろに居たでしょ?」「校長先生!またこの前、釣りに行ってたでしょ?車見ましたよ!」と得意満面に話しかけてくる姿が微笑ましいです。「あ!僕も見た!いつも車とまっとる!」校長室でのほんの数分ですが、この子たちの毎日のルーティンのようです。

あ!そうそう!別の子からは「お母さんが、『校長先生はまた朝早くから遊びにいったよ!』って言ってましたよ!」とも言われました。(だって釣りは朝が勝負だし…)こっそり車の置き場を変えました。(笑)

四方山話真穴 ver2. 其の二十二(平和公園にて。お堅い話が続きますが…)

修学旅行初日、広島のパネル公園を訪れました。何度来ても「なぜ落とした?」その思いに強く駆られます。原爆ドームのすぐ前を流れる元安川。ここは原爆が投下された後、夥しい数の人が水を求めて集まり、その川を覆い尽くすほどのたくさんの人が亡くなった場所です。ふと川岸に目をやると、見学の合間の自由時間?高校生らしい生徒が大声で水切りの回数を競っていました。悪気はないのですが、場をわかまえることに意識がいかないのでしょうか。資料館の中、目を背けそうになる写真の展示もあります。「全部、似たような写真ばかりやな。」そう言いながら通り過ぎていく若者たち。『そこに写っている亡くなった人、一人ひとりそれぞれに夢や希望があり人生があったんだよ。』心の中でそう呟きました。

「体験してないのだから仕方ない。」それで終わらせたくはない。どこまで想像できるのか?大切なのはここじゃないかと思います。それはきっと日々の思いやりや優しさにつながります。

元安川にそんな歴史が刻まれていることを知っていたら、高校生たちも水切りなどしなかったのではないだろうか。学ぶとはそういうことではないか。見学を終えた真穴っ子たちから「戦争は嫌だ。」そんな声が聞こえてきました。まずはそこから。それはテストの点数には表れない学びかもしれません。でもそんな学びをたくさん続けてほしいと思います。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。